



本号の内容

- 春に語る
 - ・代表理事あいさつ
- 事業報告
 - ・BCP支援済み企業より営業マン研修を受託
- 活動報告
 - ・総会報告
 - ・宇佐副代表共著出版
 - ・新入会員の紹介 森澤克彦さん
 - ・4月CSNの動き
- コラム
 - ・身だしなみのリスクマネージメント

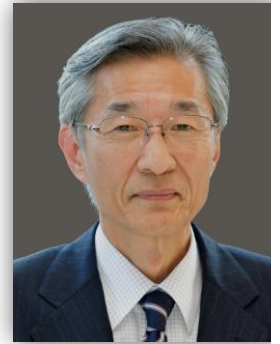
□ 春に語る □

創設期から飛躍期へ 代表理事 辻田 満

日頃、CSNの活動にお力添えをいただいております皆様、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

さて、思い出せば9年前の2004年7月の設立発起人会からCSNの歩みは開始されました。

当時34名の発起人の方々が集まり、CSNの設立趣意書、定款、事業計画等設立の申請に必要な事項を決定しました。いまは他界され方、退会された方もおり、現在会員29名中半数の14名の方々が設立当初からのメンバーです



当時は、NPO といえばボランティア活動とみられており、CSNのように事業型 NPO は福祉系の NPO はありましたが、建設系 NPO としてはきわめて少ない存在でした。当時はソーシャルビジネス (SB) などという言葉すら私も知りませんでした。

それから9年もの時が流れ、いまようやく「新しい公共」などという概念が社会に生まれ、建設系 NPO も多数誕生し、土木学会としてもこれらを支援していく組織も整いだし、ようやく社会に認知されはじめた感があります。

しかし、建設系 NPO の存在は、他の分野の NPO の存在感にくらべ社会的にはまだまだであり、一般に

知られるにはまださらに10年はかかるのかなと感じています。

欧米諸国では、NPO や NGO が一般企業と肩をならべて新卒の就業人気 NO.1 になる時代が来ています。日本ではこのような時代はまだ想像すらできないことです。

「21世紀を迎えて新たな転換を必要とする社会において、技術者の活躍する環境が大きく変化しようとしています。社会は組織力重視から個人の實力重視の時代へと向かう中で、技術者個人の多様かつ豊富な技術力を公平・中立的な立場で発揮することが求められる場面が増

えています。この場面では経験豊かなシニアエンジニアの有効な活用は社会的資産の活用として重要な方策と考えられます。

本特定非営利活動法人シビルサポートネットワークは、シニアエンジニアの豊富な経験を生かし、市民参加と相互扶助の精神のもと、都市および生活環境、施設の維持更新および防災の関連分野を主体に市民や地域の視点に立って大学等研究機関及び企業間の技術と情報の交流を支援します。また、併せて市民や行政との協働事業を行うことにより一層の相互理解と地域の活性化を図ることを目的として活動致します。」

上記の文章は、当 NPO の設立趣意書に書かれている内容です。CSN は設立当初から一貫してこの設立趣

意書に沿った活動を展開して参りました。おかげさまで、いまではバイオマスや事業継続計画 (BCP)、橋梁の長寿命化促進に関しては、それなりに知られる NPO になってきています。

また、社会的にもその実績が認められ、国や外郭組織から有識者としてお声をかけていただけるメンバーも出てきました。

CSN も来年は創立10周年を迎えます。

そろそろ創設期を終えて、本格的に活動を展開し始める時期が到来していると感じています。

ひごろ応援していただいております皆様方へのご恩に報いるためにも、さらなる活動を展開していくことをここに宣言し、CSN 季刊誌創刊号の巻頭言とさせていただきます。

□ 事業報告 □

BCP 策定支援済み企業より、営業マン研修を受託

このほど、埼玉県の中堅企業 S 社より、営業マンに対する BCP 研修を受託した。

S 社は、2011 年に CSN の支援により BCP（事業継続計画）を策定済みであるが、主力が防災商品であるので、その営業部門の BCP に対する意識をより

高めることを決め、担当営業マンへの研修をふたたび CSN がさせていただくこととなった。



事業継続をふまえた防災機能へ

CSN は、研修内容について S 社の意向をおききたうえ、以下の提案をした。

単なる BCP 概論の理解ではなく、今後 BCP 関連業務が同社の大きな事業の柱になることをめざして、営業マンの意識を「防災商品の売り込み」から「事業継続をふまえた防災機能の提案」に変える研修としたい。

S 社としては、営業戦略の変換にもつながる思いきつ研修になるが、ご了解をいただいた。

研修は 3 回おこなわれる予定で、4 月 24 日の講義には社長・事業部長以下 30 名が参加した。これは、全社員の半分にあたるそうので、同社の熱意がうかがえた。

重要施設の機能保全

有事の際、緊急対応と復旧の拠点となる重要施設。その設備系を、S 社はいくつも担っている。

社員が、BCP を意識して施設機能確保における自社の役割りを考えて行動すれば、おおきな力となると期待される。



ブレインストーミングで討議はすすむ



グループ討議を発表

第 10 期（平成 25 年度）の CSN 総会が、4 月 19 日（金）18 時 30 分から、オリンピック記念青少年総合センター104 会議室で開催された。

出席者は、正会員 20 名のうち 17 名（うち委任状 9 名）であった。

総会は、議長に高橋事務局長、書記出崎理事、議事録署名人に辻田代表・宇佐副代表を選出し、総会次第にしたがってすすめられた。

冒頭、辻田代表理事より、つぎのような開会あいさつがあった。

「わが CSN は、設立 10 期目をむかえた。今後、事業型 NPO として本格的な活動をすすめたい。

ただ、第 9 期は、BCP およびバイオの事業が途切れ、残念ながら事業収益をあげることができなかった。協働事業をはじめ外部活動のかたわら、営業活動も積極的におこなったが、当期の収益に寄与するには至らなかった。

しかし、期末に BCP 事業で複数の受託があったので、来期は状況が改善される見通しである。

会員について、今期は 3 名の方が入会（シニア・アドバイザー）してください。いずれもそれぞれの分野に精通する専門家である。

CSN のメンバーは、いままでは同窓・同企業など人脈を通じて参加された方が多かったが、3 人のみなさんはさんは CSN のホームページをみて、ミッションに賛同されて入ってください。



平成 25 年度総会にて

わが NPO が世の中に認知されてきたとうれしく思うと同時に、これからも幅ひろく人材を求めることができると期待している。貴重な戦力を得て、つぎの 10 年を共にがんばっていきたい。」

つづいて、審議事項 5 件は、いずれも異議なく承認された。

新年度の行事予定では、①定期的な集会を集約すること、②活動報告（CSN ニュース）を季刊化することが報告された。

集会は、現在は CSN サロン・CA ミーティング・推進委員会・オープンセミナーとの名称でもたれていたが、CSN サロンに統一して年 4 回（うち 1 回は総会）開催となる。

質疑では、事業収入ゼロの理由、今後の受託見通しなどについての質問がだされた。

また、福島放射能除染に携わっている会員から、「除染現場の立場から」として、NPO のあり方について、下記の発言があった。

福島の面的除染で、除染終了後の検査員などに、中立・公正の立場から地元の NPO を活用することになった。しかしこの場合、NPO は地元側のスタンスになっているので、NPO の立ち位置がはっきりしない。これでは、自治体側も NPO に依頼するにはかなり抵抗がある。

NPO は、専門家集団なのかボランティアなのか、旗印をはっきりさせてほしいと思った。また、アドバイザーにも知識がうとい人が多く見うけられた。公共事業発注にあたっては、権威ある受け皿が必要である。

以上をもって、総会は終了した。

宇佐副代表共著 **バイオマス活用ハンドブック** 出版される

原発事故以来、再生可能エネルギーをふくめたバイオマス活用の期待がたかまり、平成 24 年には国によりバイオマス事業化戦略が策定された。

バイオマス事業化の取組みは各地域ですすめられているが、バイオマスは種類が多く、地域によって賦存する量もまちまちで、かつその活用方法は多種多様である。

そこで、このほど日本有機資源協会では、これらをまとめて、バイオマス事業関係者向けのハンドブックを出版した。（以上、発刊案内より抜粋）

この本の編集に宇佐副代表が参加し、第5章を執筆した。

CSN は、事業の三本柱のひとつにバイオマス事業を掲げ、「バイオマスタウン構築」の実現のため

に、多様な技術と豊富な経験を中立・公正な立場で活かして取り組んでいる。

CSN は、現在バイオマスタウンアドバイザー4名（宇佐洋二、亀山啓、星野雅彦、出崎太郎）を擁している。とくに、宇佐副代表は日本有機資源協会の運営にも携わり、そこでの活躍がハンドブックの共著という形で結実したものである。



購入申し込みは、宇佐副代表まで。1割引きになる。

新入会員（シニア・アドバイザー）のご紹介 バイオマスの専門家、森澤克彦さんです

こんにちは。

このたび、CSN シニア・アドバイザーに登録させていただきました。よろしくお願いします。

10年余り、一般社団法人日本有機資源協会ではバイオマス活用推進事業に取り組んでまいりました。

多くの地域がバイオマスの活用に取り組んでいますが、残念ながら計画が具体化し、継続的な事業として展開されている例はあまり多くないのが現状です。何故でしょうか。

その大きな要因の一つとして計画段階において、地域に賦存するバイオマスを是が非でも処理したいという意識から調達・生産・製品供給という面を重視しがちとなり、生産される製品の安定的継続的な需要の確保という面を軽視しがちであることにあるのではないのでしょうか。

バイオマスの活用による循環型社会の構築は地域にとって有形無形のメリットを生み出しますが、

それを維持するためには、構成する様々な事業が事業性を確保し持続可能でなければなりません。

そのためには、計画段階において入口側（供給）と出口側（需要）のマッチン

グを重視した緻密な事業計画を策定し、事業実現可能性を確認することが、バイオマスの活用を実現するための最も重要な課題であると考えます。

CSN のバイオマス活用推進にかかわる活動に参加させていただき、豊かな地域づくりに貢献できれば嬉しく思います。



CSN
の動き

実施日	行事・イベント	参加者
4/5(金)	事務局定例会	辻田、宇佐、高橋
4/16(金)	建設系 NPO 連絡協議会運営幹事会	辻田
4/20(土)	よしかわまちづくりオープンサロン	辻田
4/29(月)	活動報告季刊誌第 1 号発行	

身だしなみのリスクマネジメント

村田 威巳（シニア・アドバイザー）

予期せぬ出来事が、自分の良し悪しの判断に拘らず降りかかって来ることは、ビジネスでもプライベートでもよくあることです。

このようなリスク回避は自然と対応が出来てしまっていることは良くあると思いますが、その結果は千差万別です。事前に計画が出来ていれば、結果は良い方向に導かれます。



予期せぬ出来事が降りかかって、身だしなみは…

BCPとは直接関係がありませんが、我々ビジネスマンが心がけるべき「身だしなみのリスクマネジメント」という観点で、少し想いを語らせて頂きます。

やはり、「転ばぬ先の杖」的な発想は必要なのです。

私は、社会人になって初めて就いた仕事が、紳士服の販売業務でした。それから30年ほど百貨店・外資系ブランド等の販売・情報システム・人事関連の経営管理の業務に携わり、現在はBCP（事業継続計画）策定のお手伝いをさせて頂いております。

お客様に紳士服を販売する際に、色々なアドバイスをしてきましたが、まず心がけていたことはその人が「何の目的で紳士服を買うのか」ということです。

たとえば、スーツを購入する場合、ただ単に通勤着（ユニフォーム代わり）として考えているのか、今度大事なビジネス案件のプレゼンがあるのもその時に着用するのか、新製品の発表会があるのでその司会をする時に着用するのか、等々色々なオカージョン（場面）があります。

その用途をお聞きすることにより、より適切なスーツを提供したいと思い接客をしていました。

日々皆さんがお仕事をしている中で直面する紳士服のTPOにおける「身だしなみのリスクマネジメント」について考えてみましょう。

急にパーティーに誘われた

よくある事例として、勤務中や就業後に急に発生するこんな事はありませんか？

日中、お取引先の新商品の発表パーティーがあるから同行するように言われる。就業後、重要なお取引先との接待があり、急に同席するように言われた。今夜、友人の誕生日パーティーがあるので誘われた。友人同士のカジュアルなパーティーに誘われた。

こんな時、今日の自分の服装を省みて、「まずい」・「これでは参加しづらい」・「先方に失礼かな」等々思うことがあるかもしれません。

でも大丈夫です、私の経験からもプロのアドバイスからも、次の4点が用意出来ていれば心配することはありません。

毎日用意することは大変ですが、上記で掲げた突然の出来事も、事前に「なにか臭いを感じたら」、用意をし

て出勤することにより解決できます。

1. ボタンダウンシャツを着用する。
（特にカジュアルなパーティーに参加の可能性がある場合）

ボタンダウンシャツ（BD）はネクタイを外しても襟元・胸元が崩れにくいものです。レギュラーシャツでネクタイを外すと、襟が乱れて左右非対称になるケースがありますが、洋服はとくに中心ラインが大事です。



中心が乱れていなければ全体像は清潔感・信頼感・活性感等が保たれます。ネクタイを外す際にはBDがお奨めです。

2. シューズはコインローファータイプを

ローファーとは紐ひもを結ぶ必要のない靴でスリッポンとも呼ばれ、どちらかと言うとカジュアルな服装に合うタイプですが、そのルーツは、アクセント兼お守りとして1ペニー（1セント）の硬貨を靴の甲に埋め込んで履くのが1950年代のアメリカ、とくに東海岸の大学生に大流行したのがその名の起源で、卒業式のセレモニーにも着用していたようにフォーマルな場面でも通用するアイテムです。



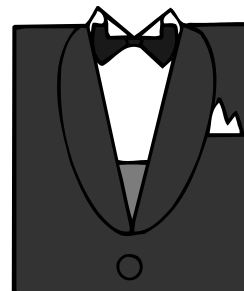
オンデューティ・オフデュー

ティ共に活用できるシューズです。何かのタイミングで、コインローファーのうん蓄を語ってください。豆知識として思わぬ効果があるかもしれません。

3. ポケットチーフ・ハンカチを有効に

ポケットチーフを持っていると、カジュアルな場でもフォーマルな場でも、その折り方によって使い分けが出来ます。シャツ・ネクタイのカラーに合わせた物を持ち合わせていると、あらゆる場合にワンポイントの身だしなみとして有効活用できます。

ハンカチも注目すべきアイテムで、パーティーや会食の際に何気なくポケットから取り出したハンカチの雰囲気（しわの具合・素材・色合い等）により、身だしなみの評価がされることがあります。



4. 自分の服装に自信を持つ

自分がその場における自分の服装（ファッション）に自信を持っていないと、他人から見た時に評価は必ず悪い結果になります。その自信のなさの雰囲気が醸し出されて相手に伝わってしまうのです。どのような場面でも、自信を持って自分は似合っているのだという気持ちで臨んでください。

そのためには、当日起こるだろう出来事を事前に察知して備えることが重要です。準備をしたならば、後はその場に自信を持って臨むのみです。準備に不備・不安があると、良い結果が出ないことが多いようです。

今回は身だしなみ（ファッション）についてお話しましたが、ビジネスでもプライベートでも毎日違う側面から色々な出来事が起こってきます。

これらに対応するために、出来る限り悪い影響を避けるために、いち早く正常な状態に戻すために、リスクマネジメント的な考え方は常に必要だと思いますし、このつまりは自分を助けることに繋がるのではないのでしょうか。



どんな時でも、
自信をもって



筆者 村田 成巳さん

編集後記

・本号から季刊誌となった。
せつかく衣がえをしたのだから、誌面も一新しようとそれなりに工夫してみた。専用ソフトがないので、知っている限りのワードの機能を駆使したつもりだが、出来ばえはいかがであろうか。
・コラムにお寄せいただいた村田さんの原稿は、文章のみだっ

たので、ご了解をえて編集部で選んだイラストなどを挿入した。

写真は、スーツの似合う往年のスター、Anthony PerkinsとCary Grantである。並んで載っている筆者村田さんの写真も、大スターに伍してひけをとらない。さすが、と思った。

事務局：高橋 肇